

The Women's Studies Association of Japan

発行 日本女性学会
事務局 〒020-0124
岩手県盛岡市厨川4丁目13番8号
E-mail jyoseigakkai-info@genj.jp
ウェブサイト
<https://joseigakkai-jp.org/>
頒価 一部300円

学会ニュース

日本女性学会
第161号 2024年5月

目次

2024年度日本女性学会大会プログラム…	1	会員の著書紹介……………	10
2024年度日本女性学会大会		会員の著書紹介募集のお知らせ……………	10
シンポジウム……………	3	会費納入のお願い……………	11
総会案内……………	5	大会会場アクセス……………	11
分科会（個人研究発表・パネル報告・ ワークショップ）……………	5	会員情報（別紙）	

2024年度日本女性学会大会 「女性学を継承する」

日程：6月8日（土）、9日（日）

会場：武蔵大学江古田キャンパス1号館（正門入ってすぐ左手）

東京都練馬区豊玉上1-26-1

* 宿泊は各自で手配してください。

参加費：会員500円／非会員1,000円

プログラム

第1日 6月8日（土）

- 12:00～ 受付開始
- 13:00～16:30 シンポジウム
- 17:00～18:00 総会

第2日 6月9日（日）

- 9:00～ 受付開始
- 9:30～12:00 分科会（個人研究発表、ワークショップ、パネル報告）
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～15:30 分科会（個人研究発表、パネル報告）

大会事務局から

*保育支援

小さなお子さんをもつ会員の大会参加を支援するため、大会参加のために一時保育を利用された場合に、会員一人当たり5,000円の補助を行うこととしました。希望される方は、以下の方法で手続きください。

*5月15日までに、三枝まで必要事項（会員氏名／所属／住所／電話番号／預けるお子さんの年齢・人数／保育サービスを利用する日にちと時間／利用する保育サービス業者の名称・場所（HPがあればそれも））を記載のうえ、メールで申し込んでください。メール件名は【大会保育補助希望】としてください。予算上、10件程度以内を予定していますので、利用される方はなるべく早くお申し込みください。

*利用日（学会大会当日に限る）の日付と宛先（当該会員氏名、子どもさんの年齢と人数）が記載された領収書（または請求書・明細書など利用を証明できるもの）を大会受付に提示し、5,000円の支払いを受けてください。（1）の申し込みがされていても、領収書（ないしは請求書明細書）の提示がない場合には、お支払いできません。

*学会からの支払いができるのは、民間・行政等の別や、地元か東京かは問いませんが、有料の業者を利用した場合に限ります。友人や親族による預かりには適用できませんので、ご了解ください。

*大会の両日とも利用された場合も、1件5,000円に限ります。

*非会員には適用されませんが、申込時までに入会手続きを済ませた場合は、利用可能です。

*バリアフリー対応

バリアフリー対応として、たとえば、要約筆記、拡大コピーなどのご要望があれば、5月15日までにお知らせください（申し込み先：西倉）。

*書籍販売

書籍販売をご希望の出版社、書店などは、5月15日までに、千田にメール件名を必ず【書籍販売の申し込み】として、お申し込みください。

*懇親会

懇親会を行います。会費は2,000円です。アルコールは出ませんが、できるかぎり美味しい軽食を用意します。今回から時間を短縮しますので、懇親会で親睦を深めたあとに、2次会・夕食会をおこなうことも十分可能です。コロナがあげたあと初の試みですので、ぜひ出席をご検討ください。

*昼食について

会場から徒歩3分程度のところにコンビニエンスストアがあります。また拉麺屋、中華料理、カフェなどが、徒歩3～5分程度のところにあります。江古田駅付近にまで出ると選択肢がそこそこあります。ドリンクなどは1号館の前に自動販売機がありますので、ご利用ください。

*宿泊について

宿泊施設は混み合いますので、早目の予約をお勧めします。会場のアクセスの欄にも記載してあるように、西武池袋線、大江戸線、西武有楽町線なども利用可能です。またバスで、高円寺駅（15分）、赤羽駅（20分）、中野駅（17分）なども利用可能ですが（カッコ内はバスの乗車時間）、バス便はそれほど多くはありません。

*円滑な大会運営へのご協力のお願い

武蔵大学敷地内、また武蔵大学の正門前の通路（武蔵大学の敷地に含まれています）においても、大声を出す、他者への威嚇行為、その他迷惑行為等で、学会の自由で円滑な運営を妨げる行為を禁止いたします。また主催者の指示に従っていただけない場合は、お引き取り願う場合があります。

日本女性学会 2024 年度大会シンポジウム

6月8日(土) 13:00～16:30

[1号館 1101 教室] (正門入ってすぐ左手)

「女性学を継承する」

シンポジスト： 上野千鶴子（認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク）
佐藤文香（一橋大学）
ディスカッサント： 加藤秀一（明治学院大学）
古川直子（長崎総合科学大学）
司会／コーディネーター： 内藤和美・牟田和恵（日本女性学会幹事）

趣旨説明

日本女性学会が設立されたのは、1979年である。アメリカの諸大学で women's studies の事情を調査した井上輝子が賀谷恵美子とともに「女性学」を提唱したのは1970年代半ばで、これが女性学会の設立につながったのである。

女性学は、既存の学問が圧倒的に男性によって担われ、男性の社会的経験に基づいて理論化・体系化されてきたことへの問題意識からはじまった。その歪みをただし、新たな方法論や概念・理論や解釈を作りあげ、性差別がどのようなものであり、どう再生産されるのかを解き明かそうとしたのである。

また、女性学は、性差別の撤廃を求めるフェミニズムの学問的表現としての歴史を持つ。日本女性学会が創設

されてから約半世紀の間、男性学が誕生し、ジェンダー研究という名称も加わり、さらにはセクシュアリティの研究、またジェンダーとのさまざまな交差を問うような多様な研究の展開がおこなわれてきた。

こうした歴史に鑑みて、いま、女性学の固有性や現代的意味を改めて問う必要があるのではないかと思われる。

シンポジウムでは、日本の女性学の創設世代の研究者として上野千鶴子、続く世代の研究者として佐藤文香に女性学が何であり、どう継承していくべきなのかについて論じていただき、ディスカッサントとともに議論していく。

上野千鶴子「女性学からジェンダー研究へ：制度化への道」

女性学はウーマンリブを契機として、キャンパスの外で民間学として始まった。井上輝子が女性学を「女性の・女性による・女性のための研究」と定義したことは、国内で物議を醸した。その後、女性学は女性センター、公民館などの社会教育の場と共に、大学での自主講座、総合講座を経て、学問の分野で市民権を獲得するようになった。その後80年代には男性学も誕生し、さらにジェンダー概念が精錬されることによって、より領域横断的な「ジェンダー研究」へと発展するようになった。その過程で大学にも「ジェンダー・セクシュアリティ」を主題とする専門課程が生まれ、講義やゼミが開講され、アカデミアにおける知的再生産のサイクルのうちに制度化されるようになった。わずかとはいえポストがつき、科研費のうちにジェンダー細目が設置され、研究者の養成が可能になった。女性学は制度化を目指してきたし、それ以外の選択肢はなかったが、それを以て女性学の「体制内化」という批判は当たらない。

本シンポでは女性学・ジェンダー研究の歴史をたどりながら、担い手の世代交替とその効果を論じたい。パイオニア世代は運動と接点を持っており、女性学とフェミニズムは車の両輪と考えてきたが、第二世代は学知の再生産の制度のもとで研究者として自己形成をしてきた。さらに第三世代は新しい情報ツールのおかげでアクティビズムとの接点と当事者性を強く持つようになった。また女性学・ジェンダー研究は総論よりも、実証データを積みあげる各論にシフトしてきたように見えるが、それは女性学に限らず、ポスト一般理論の状況にある各ディシプリンに共通した動向である。今やあらゆるディシプリンにジェンダー研究者がいるが、とはいえ、ジェンダー研究を主題とすれば周辺化され、ゲッター化される傾向は変わらない。ジェンダーが領域横断的な概念としてあらゆる学問分野で主流化されるかどうかは（ジェンダー政策が政治の分野で主流化されるかと同じく）、今後の課題である。

佐藤文香「女性学とジェンダー研究のあいだ——なにが異なり、なぜすれ違うのか」

本報告では、ジェンダー研究が制度化の道を歩み始めた1990年代を大学のキャンパスで過ごした世代として、女性学創設世代とポスト・ジェンダー研究制度化世代との間にある認識のギャップの架橋を試みたい。女性学創設世代は「ジェンダー」概念にどのような有用性を見いだしたのか。その「ジェンダー」概念はポスト・ジェンダー研究制度化世代のそれとどのように異なっているのか。両者にとって「セックス」とはいかなるものであり、それはわたしたちの「解放」や、それに向けた戦略のイメージとどのようにかかわっているのか。

もちろん、女性学やジェンダー研究との出会いは個々人によって大きく異なる。本報告では、便宜的に「世代」という用語を用いるが、年齢が両者をクリアにわけ

る線ではない。いつどのように女性学／ジェンダー研究に出会ったのか、運動を通してなのか学問としてなのか、日本でなのか外国でなのか、大都市圏でなのか地方でなのか、さまざまな要素により幾通りものヴァリエーションがあるだろう。報告ではあえて理念型として「世代」を用いて整理をするが、その背景には、大学で教育に携わる中で長年「世代」間ギャップについて考えてきた報告者自身の経験がある。

わたしたちのものの見方は置かれている位置によって規定される。各々の視界の限界を見定めながら見解を交わしあうこと、女性学もジェンダー研究もそのような対話を通じて発展してきたことを、会員と共に確かめあうような場にできればと願っている。

パネリスト（五十音順）

上野千鶴子

東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長・上野千鶴子基金代表理事。1948年富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了。社会学博士。元学術会議会員。専門は女性学・ジェンダー研究、高齢者の介護とケアも研究テーマとする。「サントリー学芸賞」「朝日賞」受賞、フィンランド共和国から「Hän Honors」受賞、アメリカ芸術科学アカデミー会員でもある。

佐藤文香

一橋大学大学院社会学研究科教授。専門はジェンダーの社会理論・社会学、軍隊・戦争の社会学。主な業績に共編著『ジェンダー研究を継承する』（人文書院2017年）、監修『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた——あなたがあなたらしくいられるための29問』（明石書店2019年）、『女性兵士という難問——ジェンダーから問う戦争・軍隊の社会学』（慶應義塾大学出版会2022年）、共編著『男性学基本論文集』（勁草書房2024年）など。女性文化研究賞受賞。

ディスカッサント（五十音順）

加藤秀一

明治学院大学社会学部教授。研究テーマは、性現象の社会的分析、生殖倫理学。近年は、体細胞系列ゲノム編集などの遺伝子関連技術の意味を「非同一性問題」を軸に考察している。著書に『はじめてのジェンダー論』（有斐閣2017年）、『〈個〉からはじめる生命論』（NHK出版2007年）他。

古川直子

長崎総合科学大学共通教育部門講師。専門はジェンダー／セクシュアリティ理論、S・フロイト研究。主要業績に『セックスもまたジェンダーである』のかーポスト構造主義フェミニズムにおけるジェンダー概念再考に向けて』『ジェンダー研究』（26巻2024年）など。

総 会

6月8日(土)
17:00～18:00
(1101 教室)

*議案は当日配布します。会員のみならず、
ふるってご出席ください。

懇親会

18:00～19:30
(1203 教室)

分科会

(個人研究発表・パネル報告・ワークショップ)

6月9日(日) 9:30～12:00

【分科会 A 個人研究発表 1】

(1403 教室)

司会：杉山直子

能力となった美しさ — 中国の高学歴女性の学校から職場への移行—

馮可欣

中国の女性は、中等教育段階では男性規準の学力が唱えられ、美しさは勉強の妨げとみなされる一方、成人への移行に伴い結婚市場・労働市場での競争力として美しさが期待されるようになる、という状況に置かれている。本研究は10名の高学歴女性に対する生活史調査を通じて、学校から職場への移行という視点から、中国の高学歴女性が期待される能力と美しさに対する意味づけとそれに関連するジェンダー秩序の特徴を解明する。

スペインと日本の女性・母性表象比較：日本映画「母性(2022)」とペドロ・アルモドバル作品比較分析

矢田陽子

この発表では、湊かなえ原作で、娘のままでいたい母親とその母親に愛されたい娘の関係性を描く日本映画「母性(2022)」とスペインを代表するペドロ・アルモドバル監督が「女性讃歌作品」として多くの映画賞を獲得した2作品の「母性表象」を比較する。スペインと日本という文化の差は女性表象や母性表象にも差異をもたらすのか、それとも文化を超えた共通性が存在するのかを考察する。

女の表現からみる女性運動の「波」：『青鞥』から『女・エロス』、そして本日のジンへ

趙男

日本の女性解放運動は、明治維新を背景に、「西洋文明」の流入と同時に進展してきたと考えられがちで、その独自の歴史的なルーツと躊躇は見落とされている。本報告は、『青鞥』の創刊から、女性たちの発言の場、情報伝達の場、支援の場を提供した女性の個人出版物の足跡をたどりながら、女性運動の「波」の継承と行き詰まりを再考する試みである。

おひとりさま女性のイメージの変遷—現代のおひとりさま女性が抱える問題とは

西田梨紗

未婚女性が年々増加しているが、おひとりさまのロールモデルは不在のように思われる。おひとりさま女性のイメージは岩下久美子著『おひとりさま』(2001年)や天海祐希主演ドラマ『結婚しない』(2012)から彷彿されるキャリアウーマンのまま留まっており、一般的な独身女性とはかけ離れているように思われる。本発表ではおひとりさまの描かれ方をたどった上で、現代における普通のおひとりさまの像を探っていききたい。

「ベビーユートピア」の社会政治的アジェンダ：ギルマンの Moving the Mountain にみる社会主義フェミニズム

宮津多美子

本論は、ベラミーのベストセラー Looking Backward (1888)に触発されてギルマンが執筆した近未来ユートピア Moving the Mountain (1911)を取り上げ、インド・チベット旅行で遭難し、30年後にアメリカに帰国した伝統的価値観を持つ主人公ジョン・ロバートソンの苦悩と絶望に注目しながら、ギルマンの社会主義フェミニズム改革とその示唆を歴史的な文脈の中で考察する。

【分科会 B 個人研究発表 2】

(1404 教室)

司会：鈴木彩加

経済資本を獲得するためのひとり親の女性の労働に関わるハビトゥスに関する研究

西川由紀

P・ブルデューのハビトゥス論を援用し、ひとり親の女性に身体化された労働に関わるハビトゥスを明らかにする。ひとり親の女性の経済資本の獲得に関する仮説を

制定し、半構造化自由回答法によりデータを得た後、分析、検証した結果、仮説は立証された。下位のカテゴリーとして、3つのカテゴリーが抽出された。その結果これらのハビトゥスを強く身体化するひとり親の女性ほど、経済資本の獲得につながりやすいことが指摘される。

会計年度任用職員女性が感じる2種類の不安について —計量テキスト分析からわかること—

池橋みどり

公務非正規女性全国ネットワークが2021年に実施した調査では、年収200万円未満が全体の5割を超える厳しい経済状況、多くが1年ごとの雇用期間で働いている不安定な身分、更新や将来への不安を訴える声が明らかとなった。年収の低さや不安定さは新聞等で報道された。将来の不安は回答者の9割以上が「感じている」が、十分な分析はされていない。上記のうち会計年度任用職員女性の自由記述を対象とし、2種類の不安について報告する。

「婦人警察官」の手記に見る婦人警察官制度の発足

牧野雅子

戦後、警察民主化の一環として、全国の警察で婦人警察官制度が発足した。しかし、「婦人警察官」という呼称は警察官としての身分や役職を示すものではなく、実際は、警察書記という事務職員にすぎず、職務も限定されたものであった。採用された婦人警察官たちには当時の警察組織や婦人警察官の役割がどのように見えていたのか、警察という男社会に飛び込んだ動機はどのようなものだったのか、当事者の手記から読み解いていく。

ナミビアにおける女性牧師増加の背景と現状

渡邊麻友

今日、世界の教会では女性牧師の認否をめぐる活発に議論されている。本発表では、近年女性牧師が増加している南部アフリカのナミビア共和国に焦点を当て、その背景と現状を考察する。彼女たちの語りからは、ジェンダー平等推進の影響を受け、高位ポストに就くことへの戸惑いや葛藤も垣間見られた。女性牧師数の増加はジェンダー平等を示すのか。

「美」を売る労働はいかにジェンダー化されるのか —女性美容部員と男性美容部員の比較を通して

永山理穂

美容サービスを提供する仕事は、もっぱら女性的／女性向きであると想定される。百貨店で化粧品を販売する

美容部員はその典型例であるといえよう。本報告は、女性的であると当然視・自然化されてきた美容部員の労働のジェンダー化のプロセスを、男女比較を通して明らかにしようとする。そのさい、美容部員25名を対象としたインタビューデータおよび筆者が美容部員としてアルバイトしながら得た参与観察データを用いる。

【分科会C ワークショップ】 (1406 教室)
経口中絶薬から考える日本のSRHR

司会：長沖暁子

報告者：長沖暁子・大橋由香子・林千章

刑法堕胎罪が存在し、その例外として医師に中絶を許可している母体保護法では配偶者同意が必要。こんな日本のSRHR（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・ライツ）を、経口中絶薬で変えることができるのか？すべての人が安全な中絶にアクセスできるよう中絶薬を提供する「Women on Web」の創設者レベッカ・ゴンバーツさんへのインタビュー動画（SOSHIREN女のからだから制作）を観て、考えたい。

【分科会D パネル報告1】 (1405 教室)
公共サービスの持続可能性を考える～ジェンダー視点で捉える公務労働

司会：渋谷典子

「自分ゴト」として考える公共サービス～研究と実践をつなぐために

渋谷典子

公共サービスの持続可能性について、ジェンダーの視点からとらえることは、担い手のみならず受益者である市民にとっても重要な課題である。非正規公務員の4人に3人は女性であることが常態化し、指定管理者制度などの仕組みのもと「公務の民間化」のなかで働く人の数も増え続けている。①非正規公務員、②公務の民間化という枠組みを設定し、法的アプローチから分析しつつ、研究と実践いかにつないでいくかについて検討する。

非正規女性をがんばらせる構造と公務専門職の持続可能性

廣森直子

公務非正規専門職で働く女性へのインタビュー調査から、ジェンダー／非正規の差別の二重性を検討する。専

専門性を要請しつつ低処遇、有期雇用であることは、専門職の職業としての持続可能性を危うくしているが、そうした職場で「がんばる」人によって専門性は支えられている。さらには、そうした状況は職場の問題性を訴えにくくし、問題意識を持ってがんばる人がつらくなる構造を再生産しつづけている。

公務職場における仕事の序列化とジェンダー～「専門職」として働く公務非正規女性の経験調査から

瀬山紀子

公務領域で、非正規労働が女性を主な担い手として広がってきた。公務非正規女性全国ネットワークの調査で、それら仕事の担い手は、不安定で低い待遇であることが確認された。公務の非正規化の背景には、公務領域における仕事の序列化の問題がある。会計年度任用職員制度も序列化を進める大きな要因となっている。では、非正規の働き手は、自らの仕事をどう語るのか。非正規専門職女性の経験調査に基づき、その語りを分析する。

6月9日(日) 13:00～15:30

【分科会 E 個人研究発表 3】

(1403 教室)

司会：大野聖良

ネパールの若者の海外出稼ぎトレンドによるコミュニティ変容と女性自助組織の役割

竹内愛

ネパールでは、近年、海外出稼ぎが増加しており、一家に一人は海外出稼ぎに行っているような状況である。それによってネパール国内では、若者不在の問題、儀礼祭祀の担い手の高齢化、高齢者ケアを誰が担うのかという問題が起きている。それらの問題に対し、各コミュニティでは女性自助組織がリーダーシップを発揮し、女性が儀礼祭祀に参加をして文化継承を担ったり、グループで高齢者ケアを担うなど新たな活動を始めている。

女性の経済力向上と世帯内ジェンダー関係～カメルーンとナイジェリアを事例として～

甲斐田きよみ

発展途上国では女性を対象とした収入向上支援が数多く行われ、世帯内発言力の向上が期待されてきた。しかし妻が経済力を得ると夫が世帯に必要な支出を減らした

り、妻の経済活動を妨害したり、暴力を加えたりという例もある。カメルーンとナイジェリアで実施したインタビュー調査から、女性の経済力向上が世帯内のジェンダー関係にどのような影響を与えるか、女性の世帯内発言力の向上に繋がる、あるいは妨げる要因は何か考察する。

移動は女性に何をもたらすのか：ヒマラヤからニューヨークまで、ある民族的コミュニティのケース

佐藤斉華

本発表は、女性がいかに移動し、それがどう変容し、そうした女性の移動と変容が女性のありかたをどう変えつつあるかを、ネパールのヒマラヤ山麓を故地とするコミュニティ、ヨルモを例に検討する。伝統的に生家から他家に「(嫁に)行く」者として周縁的位置づけを与えられてきたヨルモ女性が、出稼ぎに行き、さらにはその先で定住していくとき、その位置づけはどう変わってきたのか。長年のフィールド調査に基づいて報告する。

ジェンダー化された無国籍：現代ネパールにおける女性の市民権証取得プロセスに着目して

川口千尋

UNHCR による無国籍者の削減を目指した大規模なキャンペーンが今年 10 年目を迎えるなど、無国籍の問題が耳目を集めるようになって久しい。一方、ネパールでは現在でも事実上の無国籍者が 400 万人以上いる。本発表では、母親の名前に基づくネパール国籍の取得に困難が伴う事例や、財産相続や DV の提訴を防ぐために家族や婚家が女性を無国籍状態にしておく事例などに注目し、ジェンダーの観点から無国籍状態について論じる。

中国における家父長制理論の再考：フォーブレの家父長制理論にもとづく

王嘉若

UNHCR による無国籍者の削減を目指した大規模なキャンペーンが今年 10 年目を迎えるなど、無国籍の問題が耳目を集めるようになって久しい。一方、ネパールでは現在でも事実上の無国籍者が 400 万人以上いる。本発表では、母親の名前に基づくネパール国籍の取得に困難が伴う事例や、財産相続や DV の提訴を防ぐために家族や婚家が女性を無国籍状態にしておく事例などに注目し、ジェンダーの観点から無国籍状態について論じる。

アメリカ黒人女性のフェミニズムとパレスチナ

五十嵐舞

アメリカの黒人の運動はしばしばパレスチナとの連帯を示してきた。本報告では、アメリカの黒人女性フェミニストの作品執筆や演説などを通じた運動におけるパレスチナとの連帯について検討する。彼女たちはアメリカ国内の人種やジェンダーに関する暴力に対する戦いを、どのようにイスラエルやアメリカの暴力の分析やパレスチナとの連帯に接続するのか。黒人女性フェミニストの取り組みを整理し、接続の方法を分析する。

介護保険制度開始後のケアマネジャー業務の制度的位置づけの変化と労働の変容

中林基子

本報告は、日本におけるケア労働の新自由主義的再編という観点から、介護保険制度においてケアマネジャーの業務内容が利用者本人への支援から家族そのものへの支援へと変化してきたことに着目し、介護保険制度開始後のケアマネジャー業務の制度的位置づけが変化するなかで、ケアマネジャーは業務上の役割をどのように捉え実践してきたのか、インタビューをもとに報告する。

ケアの倫理から検討する嫁の解放—奈良県奈良市旧都祁村の葬送・先祖祭祀を事例に

森恭子

嫁は、従来、家の文脈で抑圧された存在として捉えられ、家からの解放が目指されてきたため、嫁が果たす役割の価値について十分な議論がなされているとは言い難い。本報告では、ケア論に依拠することで介護以外の嫁のケア役割として、葬送・先祖祭祀に着目し、急激に変化する葬送の状況を高齢者の死の質の観点から捉える。奈良県奈良市旧都祁村の彼岸慣行の現地調査から嫁のケア役割の分節化を行い、嫁役割のケア分担を検討する。

被害に遭わなければありえた世界とありえなかった世界の狭間で—日本の性暴力被害者支援をめぐる当事者のジレンマに着目して

井上瞳

2021年、日本政府は「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの強化」を決定した。柱は支援につながるための機能強化である。しかし、被害を経験した女性たちが生きているのは「被害が起きた後の

世界」だけではない。彼女たちは「もし性被害に遭わなければありえた世界」を希求せざるをえず、その世界ではそもそも支援につながる必要がない。本発表はこうした支援をめぐる当事者のジレンマについて考察する。

女性団体に対する誹謗中傷を克服するために：女性団体包括的実態調査をもとに

三浦まり・大倉沙江・小谷幸・金美珍

筆者らが2022—24年に実施した日本の女性団体に関する包括的実態調査（317団体、回収率13.5%）及びヒアリング調査の結果をもとに、誹謗中傷を経験した団体の特性及び影響を明らかにし、バックラッシュにどのように抵抗するのかを論じる。調査からは、フェミニズムや女性の人権に関わる団体が攻撃されている実態が明らかになった。活動を萎縮させないために、行政からのメンタル面での支援を含む必要な社会的支援について論じる。

アイルランド共和国の中絶合法化運動における当事者のナラティブと中絶の脱スティグマ化

佐伯英子

アイルランド共和国は1983年に胎児の生存権を憲法で規定して以来、厳しい反人工妊娠中絶の法制度を有していたが、2018年の国民投票でそれを覆し、翌年施行の保健法によって妊娠12週未満の中絶を合法化した。この変革を支えた社会変化の一つに、中絶の経験者がそれまで語ることでできなかった自らの経験や思いを発信し始めたことがある。本発表では、当事者の語りの中絶の脱スティグマ化の過程についての分析を発表する。

人権としてのリプロの権利

塚原久美

20世紀後半、人類は史上初めて確実に安全な避妊と人工妊娠中絶の手段を得た。当時、「個人的なことは政治的」として、性と生殖の問題に取り組み始めていた北半球の女性解放運動の活動家たちは避妊ピルや中絶の合法化を求める運動を展開したが、ほどなく南半球の女性たちがそうした手段を「強制」されていることを知り、「産む／産まない」のどちらについても女性が主体的に選ぶ「リプロの権利」の概念を構想し、国連に持ち込んだ。

月経時の水泳の授業への参加—大阪府の生徒と教師へのインタビューから—

小塩若菜

本発表では、大阪府の高校生と教師へのインタビュー結果から、学校における月経時の水泳の授業への参加について検討する。現在の学校現場では、生徒が水泳の授業の際に月経が重なってしまった場合の対応について苦慮している状況がある。また、月経というものが十分に考慮されずに、水泳の授業への参加を促されており、生徒達は様々な感情を抱いている。そのような実態を女性学やジェンダーの視点から捉えることを目指す。

中国人性的マイノリティの留学生における移住後の活動

孟令齊

本報告では、日本に住む中国出身の性的マイノリティの留学生を対象に、移住後の活動に着目する。国家権力に埋め込まれる異性愛規範と移住現象を考察するクィア移住研究の視座に基づき、留学生の特徴を踏まえたうえで、出身国の国家権力によって触発された移住後の活動の様態を捉える。本報告では性的マイノリティの留学生が自ら、当事者性から出発し、知的活動に関与していく過程を論じる。

クィアベイティングなのか、それともクィアコーディングなのか —二元論を越え 中国本土の主流映像作品におけるクィア表象を探る

于寧

本報告は中国本土の主流映像作品におけるクィア表象をめぐり、英語圏で生まれた「クィアベイティングなのか、それともクィアコーディングなのか」と二つの概念をめぐる議論に、中国本土独自の「売腐」を加え、この三つの概念を中心に、これらのクィア表象がいかにして検閲を免れたのかを解明することを通じて、上述の単純化された二元論を越えた主流映像作品におけるクィア表象の制作や実践の実態をより多面的に探究する。

【分科会 H パネル報告 2】 (1406 教室)

フェミニズムと表現・出版・学問の自由

司会：森田成也

危機に立つフェミニズムと表現の自由——アビゲイル・シュライアー『不可逆的ダメージ』翻訳出版事件を中心に

森田成也

本パネルのテーマをめぐっては、日本軍「慰安婦」問題やフェミ科研費裁判などに示されているように、右からの脅威が決定的であった。しかし今日、トランス問題をめぐって、左からの脅威がより深刻なものとなっている。その典型例が、アビゲイル・シュライアーさんの『不可逆的ダメージ』の翻訳出版をめぐる事件だ。この事件を中心に、いま危機に陥っているフェミニズムと表現・出版・学問の自由について論じたい。

諸外国におけるフェミニストのキャンセル事件

キャロライン・ノーマ

トランス問題をめぐって、フェミニストの表現・出版・学問の自由が脅かされているのは日本だけではない。むしろ、日本に先立ってすでに欧米や韓国では同じような事態がいつそう進んでいる。諸外国の事例を紹介することで、この問題がグローバルなものであり、世界史的重要性を持っていることを論じたい。

憲法学の観点から見たフェミニズムと表現の自由

中里見博

私はこれまでポルノと表現の自由の問題について論じ、形式的な「表現の自由」論の限界について明らかにしてきた。しかし今日、女性への性暴力を正当化し補助するポルノがはびこっている中で、sex-based rightsを擁護するフェミニストのまっとうな表現が、「トランス差別」だとして抑圧されている。この問題について憲法学の観点から論じる。。

会員の著書紹介

- 日本学術協力財団編『学術会議叢書 31 女性の政治参画をどう進めるか』日本学術協力財団、2024
(三浦まり会員が1と2を分担執筆)

——会員の著書紹介募集——

以下のルールで会員のみなさまの著書を紹介します。掲載ご希望の方は、ニュースレター担当者までご連絡ください。

- ・会員が執筆・編集している単行本（分担執筆含む、雑誌をのぞく）
- ・1年以内の発行物
- ・ご本人の申し出があったもの
- ・寄贈は条件としない
- ・寄贈いただいたもので会員の著書と判明したもの

ニュースレター担当 三枝麻由美、西倉実季

メールニュース不達について

日本女性学会メールニュースは2024年4月15日までに931号まで配信しています。メールアドレスの変更や登録ミス等のため、届いていない方がいらっしゃるようです。届いていないという方は、登録したいメールアドレスを明記のうえ、メールニュース担当までご連絡ください。

会費納入のお願い

2023年度の会費が未納の方は、どうぞお早めにお支払いください。会費納入のお願いと払込用紙はすでに送付しております。払込用紙をなくされた方は、郵便局備え付けの払込用紙をご利用のうえ、下記の納入先までお振込みください。

ゆうちょ銀行 振替口座 口座記号番号 00890 - 6 - 31306 加入者名 日本女性学会

- ネットバンキングでも納入できます。

ゆうちょ銀行 支店名：089（ゼロハチキユウ） 預金種目：当座 口座番号：0031306

- 日本女性学会の会費は年収スライド制（自己申告・税込み・該当年度予定収入）をとっております。

- ・400万円未満（無職・学生含む）：6,000円
- ・400～600万円未満：8,000円
- ・600万円以上：10,000円

- 3年以上会費を滞納されている方は退会とみなされます（日本女性学会幹事改選選挙実施規定第4条（3））。複数年滞納されている方は、過不足なくお支払いいただくためにもご自身の納入状況を事務局にご確認のうえ、どうか早急にお支払いください。

- 学会の運営は会員のみさんの会費によって成り立っております。重ねてのご協力をお願いいたします。

- 永年会員制度をご活用ください

2021年度から永年会員制度が開始されました。前年度までの会費を納めている65歳以上の会員は、前年度会費額の3ヵ年分の納入によって会費完納とし、永年会員となることができます。振り込み時に「永年会費」とお書きください。

65歳以上の会員の皆さま、どうぞご活用ください。

大会会場アクセス

武蔵大学江古田キャンパス
(東京都練馬区豊玉上1-26-1)

*詳しいアクセスは、<https://www.musashi.ac.jp/access/access.html>をご覧ください。

*宿泊は各自で手配してください。

交通機関のご案内

- 西武池袋線「江古田駅」南口より徒歩6分、「桜台駅」南口より徒歩8分
- 都営大江戸線「新江古田駅」A2出口より徒歩7分
- 西武有楽町線「新桜台駅」2番出口より徒歩5分
- 中野駅より関東バス江古田駅行「江古田駅」下車徒歩5分
- 高円寺駅より関東バス・国際興業バス赤羽駅行「豊玉北」下車徒歩5分

